



2023

もっと知りたい

京都の遺跡 第12号

三十石亭乃通路

— 伏見の賑わいと水上交通 —

やれ 伏見 中書島なあす
泥島なあれどよおす
なぞに 撞木まぢやな 藪の中よ



1 伏見城跡出土の金箔瓦



『都名所図会』『伏見船場』をもとに作成

埋文センターの調査から

速報

きつがわかしょう

木津川河床遺跡（八幡市）

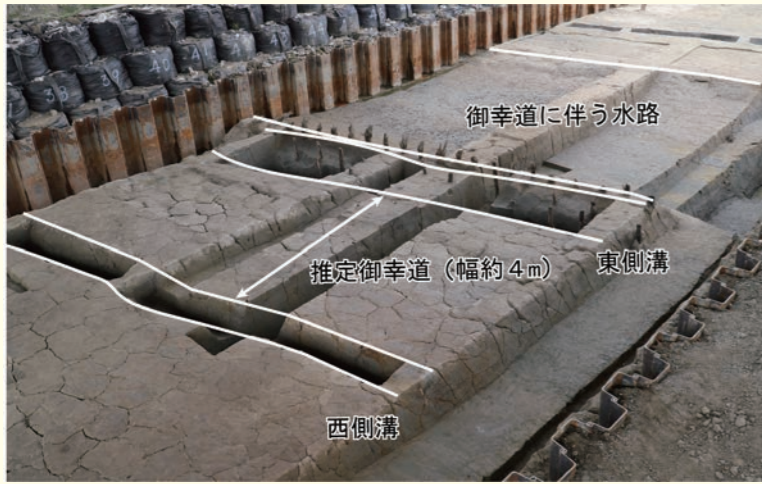
木津川大橋付近から三川合流地帯まで、東西 5km、南北 2.5km に広がる京都府下でも有数の規模の遺跡です。これまで 35 回以上もの発掘調査が行われ、古墳時代から明治時代まで、幅広い時代の遺構や遺物が見つっています。

第 37 次調査では木津川に架かる御幸橋の下を調査しました。木津川は明治時代に付け替えられたためそれ以前は陸地で、古墳時代前期や飛鳥時代の竪穴建物や、中世の井戸、近世の道路側溝など多くの遺構、遺物が確認できました。中でも、調査区の中央で見つかった二本の溝と幅 7 m もの水路は、江戸時代の



街道、御幸道に關係する遺構であると考えられます。二本の溝は道路の両側に造られた側溝、7 m の水路は道路と並行する運河のようなものであったと考えられます。

御幸道は石清水八幡宮の参道としての役割があったといわれており、現在の東高野街道にあたります。御幸道という名前は現在御幸橋に形を変え、今も残っています。その「御幸」という名前から、都から天皇陛下や貴族たちが石清水八幡宮に行幸する際に使用された道ではないかと考えられます。御幸道の発見は石清水八幡宮を中心とした周辺地域の歴史を考える上で非常に重要な成果と言えます。



推定御幸道 (南西から)

遺物が語る京都の歴史

つぼつぼ (京都市平安京跡)



写真のちいさな壺は平安京左京一条三坊三町跡の江戸時代の遺構から出土した「つぼつぼ」と呼ばれる遺物です。高さ 3-4cm 程度を測るこの「つぼつぼ」は都の街中で多く見つかっていますが、ほかの地域では稀です。江戸時代の史料から伏見稻荷の参道の露店で「つぼつぼ」が売られていたことがわかっています。このほか、茶の湯の図案に取り入れられるなど、京都において広く親しまれていたことがわかっています。しかし、今ではその用途がわからない不思議な遺物です。

発掘調査

よもやまばなし

全ての基準は杭にあり！

発掘調査地には、必ずと言ってよいほど、杭が地面に打ってあります。その杭には測量や実測の基準となる国土座標値や標高値が mm 単位で設定されています。調査関係者が、杭を何よりも大切するのは、その所以です。



【発行日】 令和 5 年 3 月

【編集・発行】

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内 40 番地の 3
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>



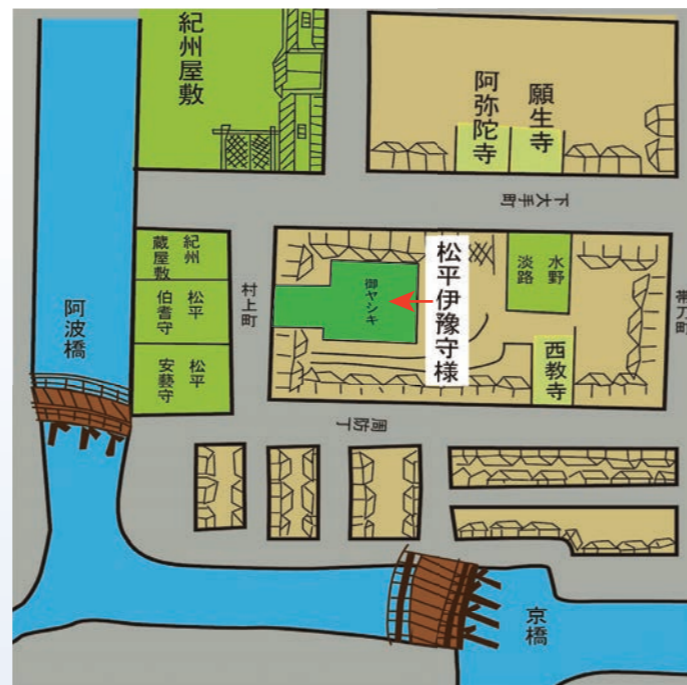
2 宇治川太閤堤跡(国史跡) 宇治市

豊臣秀吉の伏見城築城に伴い、宇治川の運搬水路を整え、大坂までの航路を確保する目的で築かれた護岸と水流を調整する設備です。



3 伏見人形(木津川河床遺跡)

伏見稲荷は江戸時代には既に参詣者の多い神社で、参道の露店には土産として土人形が並べられ、人々がこぞって買い求めたそうです。伏見人形は、はじめは右の写真のように岩絵具などで着色されていましたが、時の流れや土中にあったため、岩絵具が流れてしまい、左のように素焼きの地肌が見えた状態で出土します。



4 山城国紀伊郡伏見国切絵図

(岡山大学付属図書館蔵をもとに作成)

松平伊豫守は岡山藩主池田氏のことで、この絵図に書かれた岡山藩伏見屋敷の溝から藩士らの名前が書かれた木簡(5写真)が出土しています。

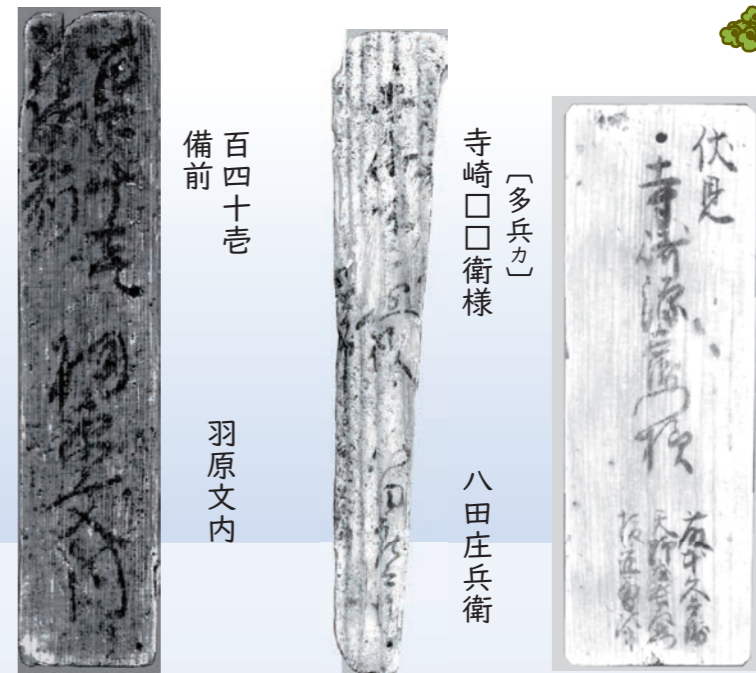
伏見は豊臣秀吉によって伏見城の城下町として整備され、伏見城廃城後も水運の便が良いことから、西国を中心とする諸大名の屋敷が残されました。大名屋敷は参勤交代の宿場や京や江戸との連絡、物資の調達の役割を担っていました。

京から大坂に下るには、伏見街道を南下し伏見で三十石船に乗り換える経路がよく用いられました。船旅を舞台に上方落語「三十石夢乃通路」や浪曲「石松三十石船道中」が作られました。船中では、くらわんか舟と呼ばれる小舟から飯や汁物、酒などを購入し道中を楽しみました。



6 くらわんか茶碗(長岡京跡)

淀川を往来する舟に飲食物を売っていた「くらわんか舟」で器として用いられていたことから名付けられた、日常遣いの安価な磁器です。現在の長崎県の波佐見などでつくられていました。



5 荷札木簡

岡山藩士や京の商人の名前が書かれています。伏見に造られた屋敷が物資調達などの役目を果たしていたことがわかります。



7 舟釘(木津川河床遺跡)

横断面が扁平で特殊な形状をしています。板と板を固定して和船を作りました。当時の淀川川底からまとまって出土したことから、和船が朽ち果てた跡かもしれません。



8 通い徳利(木津川河床遺跡)

伏見は酒どころとしても発展しました。写真は丹波焼の徳利で、酒屋から量り売りで酒を購入するときの器です。本来は酒屋から借りて使用される徳利なのですが、なぜか町人の住居からも広く出土します。

近代	江戸時代
近世	安土桃山時代
	戦国時代
中世	室町時代
	南北朝時代
	鎌倉時代
古代	平安時代
	奈良時代
	飛鳥時代
古墳時代	後期
	中期
	前期
弥生時代	後期
	中期
	前期
	晩期
縄文時代	後期
	中期
	前期
	早期
旧石器時代	